

TENOHASI

てのはし

地球と隣のはっぴい空間・池袋

会報誌第28号 2014年3月31日発行



餅つきに並んだ人とお囃子 12月30日

越年越冬活動号

巻頭コラム	1	インタビュー ②	13
越年越冬活動報告	3	「60すぎたらあきらめだね」	
ふとんで年越しプロジェクト	7	最近のマッサージ・鍼灸班	15
インタビュー①	9	カンパ御礼	18
池袋のジャムおじさん			

巻頭コラム 久しぶりに「じい」に会った。

「じい」は笑顔のかわいいじいさまで、昔よりちょっとふっくらしたから好々爺に磨きがかかった。髪はますます少なくなってきたけど、まあ元気そう。歯は相変わらず、ほとんどない。

初めてであったのは、私がTENOHASIに関わりはじめた2004年。彼はTENOHASIの炊き出しを担っていた路上生活当事者メンバーで、池袋駅東口でビッグイシュー（路上生活者が販売する雑誌）を売りながら生活していた。その風貌から60代後半だと思ったら、まだ52だと聞いてびっくりこいた記憶がある。

その後、某区で生活保護を受けたが、いまでも駅前でビッグイシューを売っている。

.....

ああ、かわりはないですよ。去年、調子が悪くて大腸に内視鏡入れてしらべてもらったけど、何も見つからなかった。



ビッグイシューの売れ行き？悪くなったね。丸一日たっても発売日で15冊、普段なら10冊行かないもの（1冊売ると160円の収入になる）。

でもほかにできることないからやってる。

だから、ビッグイシューでの収入は、月に4万円もないね。

それだけじゃとてもやっていけないよ。

だから生活保護はずっと受けてる。

売れても収入は増えないでしょ、って？

ああ、確かにビッグイシューの売り上げ収入が増えるとその分だけ保護費は減るよ。

いくら減るって？

何かで収入があったとき、これだけは手元に残してもいいって言う、控除っていうのがあって、収入が増えると控除もふえるんだけどね、保護費が減らされる。まあ、4万円収入があったら、1万5千円くらい手元に残る。残り2万5千円、保護費が減るんだ。

収入申告（保護費以外に収入があったら役所に申告する）？してるよ。

何冊売れていくらの収入になったというのを毎日きちんとノートに書いて、ケースワーカーに出してるよ。だからケースワーカーも私のことは信用してくれてる。この前なんか、財布拾って交番に届けたらお礼を2千円もらってね、それも収入申告に書いたらケースワーカーが「うーん」ってうなって「これはいいです」っていつてくれたよ。

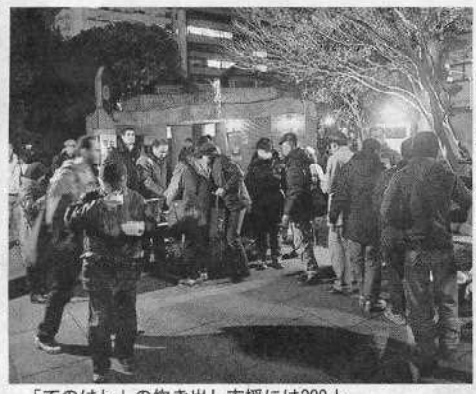
もう4年間おなじケースワーカーなんだ。それまでは毎年かわっていたんだけどね。私は楽なんじゃないの？だって、家庭訪問来ないもん。ほんとは月1回行かなきゃいけないのに、「Oさんは大丈夫でしょ」って。

もう62だしね、毎日ビッグイシュー売ってるから、ケースワーカーもほかの仕事をしろとは言わないね。最初に某区で生活保護を受けた時はビッグイシューなんて仕事じゃない、ほかの仕事をしろってうるさかったけど、今のところは係長が「ビッグイシューも立派な仕事です」っていつてくれる。

2014年新年の抱負？ いや、そんなものは何もないよ。ただ、元の路上生活に戻らないようにできれば。.....

2014 知事選 足元から ② ホームレス

福祉からこぼれた人 民間団体が手助け



「てのはし」の炊き出し支援には200人を超える野宿生活者らが集まった=11日午後7時すぎ、豊島区の東池袋中央公園

11日午後7時、豊島区の高層ビル・サンシャイン60の足もとにある東池袋中央公園。234人の列ができた。気温は5度。「こんな日は温かい飯が」と笑った。

池袋を拠点にホームレスを支援するNPO法人「EPOCHALIS(てのはし)」による炊き出し活動だ。この夜はイスラム教礼拝堂「大塚モスク」も協力し、カレーやすいとん、衣類を配った。てのはしは、医師ら医療関係者、教員、会社員、学生、野宿生活を脱した人らでつくるボランティア団体。月2回、炊き出しや医療相談に応じ、ホームレス状態からの脱出を支援する。毎週水曜はおにぎりを手に、池袋駅周辺を一夜回りする。支援対象は、公園や路上で暮らす人だけではない。「僕のような、ネットカフェ難民も助けてもらえたい。派遣社員の男性(46)

■都と23区の主なホームレス支援

Table with 2 columns: 自立支援センター, 自立支援住宅, 巡回相談事業. Content describes support services like housing, counseling, and job training.

は昨年12月29日、この公園にたどり着いた。行政窓口が閉まった年末年始、池袋、新宿、渋谷、山谷で支援団体が炊き出しをした。各団体が連携した「ふとんで年越しプロジェクト」では、暖かく年を越せるようビジネスホテルなどの部屋(シェアハウス)を無償で提供した。男性も、てのはしの支援で寝場所を確保できた1人だ。男性は神奈川県藤沢市の自動車関連工場の期間工だった昨年春、雇い止めにあつた。5月に派遣登録した

高齡化進み平均59.3歳 実態把握しきれず 都の調査によると、23区のホームレスの人数は年々減っている。2013年8月時点では、1057人と前年より189人減った。1999年の5800人よりピークに減少傾向にある。都は、23区と共同で行う自立支援事業や、生活保護の適用などが一定の効果を出している、とみている。一方、都の調査は屋間の定点観測のため、民間の支援団体は「公園など公共の場から追い出されて街を漂流する人や、ネットカフェなどで寝泊まりし

が、1丁関連の仕事に就けたのは4カ月後の9月だった。1泊1800円の新たな大久保の「ネットルーム」で寝泊まりする毎日。日給1万円のうち、半額が現金支給。残りは翌月の振り込み。12月28日、年を越すために必要な貯金から下ろした7万円が、バッグ代わりの紙袋ごと置き引きに遭った。手元にはわずか3000円。路上を一晚さまよったが「寒くてたえられない」。通話機能を契約せず、ネットだけが使える携

現場に来て声聞いて

「効率や生産性を求める今の社会で、経済的に貧しく、人とのつながりが弱く、高齢者や障害者たちが福祉からこぼれ、路上に追いやりられている。てのはし代表で、精神科医の森川すいめいさん(40)は指摘する。てのはしは2003年の発足以降、7000〜8000

弁護士鈴木氏 知事選出馬表明

23日告示の東京都知事選に、弁護士鈴木達夫氏(79)が立候補を表明した。「全ての原発を今すぐなくす」「五輪関係の予算を、高齢者、貧困、被災者対策に振り向ける」と述べ、2020年五輪に反対する姿勢を見せた。

理」も掲げる。渋谷区の高層ビルや美竹公園は夜間施設され、池袋周辺の首都高の高架下はフェンスで仕切られた。五輪に沸く首都の足元で、ホームレスの閉め出しが進む。池袋駅近くの路上で暮らす70代の男性は「オリンピックで、わしらはまた追い出されるのかな」と嘆いた。

森川さんは「新知事には現場で声を聞き、現場から今の社会を見渡して、みんなが生きやすい社会を示してほしい」と注文する。(斎藤佑介)

越年越冬活動報告

2013～2014

TENOHASIの最大の支援イベントは越年越冬活動。日雇いなどの仕事が途切れ、役所の窓口も閉まり、寒さが本格的になる年末年始は、もつとも路上死の危険が高まる時期です。そこで年末年始の6日間、連続

で炊き出しと夜回りを行うのが越年越冬活動。年越し派遣村で注目されましたが、池袋では2000年頃から続けている活動です。

			炊き出し	昼食	夜回り
12	29	晴れ	146	58	64
	30	晴れ	なし	100	
	31	晴れ	140	63	72
1	1	晴れ	125	70	
	2	晴れ	140	71	70
	3	晴れ	150	57	
		平均	140, 2	69, 8	68. 7
		前回	129. 2	54. 5	74. 6

炊き出しに並ばれた方の数
& 夜回りで出会った人の数

活動内容

(詳しくは次ページのチラシ参照)

昼飯・夕飯の提供

昼飯は五目炊き込みご飯・親子丼・肉野菜炒め弁当など。30日は餅つきを行いました。利用者数は平均69・8人でした。夕食は本格カレーライス(大塚モスク提供)・鮭入りぶっかけ飯・年越しそばなど。利用者は平均140・2人でした。

衣類・ドリンク配布

寄付された大量の冬物衣類を配りました。衣類を求めて並ばれる方は毎回20～30人で、皆さん暖かい衣服を手にして笑顔でした。衣類の後はお楽しみのホットコーヒーで一息。

医療相談・生活相談

今回は「ふとんで年越しプロジェクト(10ページ参照)」ができて、「自立生活サポート

センターもやい」のスタッフはじめとして池袋・渋谷・山谷の支援団体が共同で医療相談・生活相談を行い、緊急に宿泊場所が必要な方約二十名を用意した宿に保護しました。

鍼灸・マッサージ

期間中のほぼ毎日、無料で施術しました。12～15ページを参照してください。

夜回り

池袋駅構内と東口・西口で寝ている路上生活者を訪ねておにぎりやチラシ・カイロ・ミカンなどを配り、体の調子が悪い方には医師が薬をお渡ししたり救急搬送の手続きをするなどする活動です。前回までは毎晩回っていたのですが、最近は重篤な病気を抱えた方も減ったので隔日にしました。夜回りで出会った方の数は平均68・7人でした。

ほうじん
NPO 法人 TENOHASI @池袋

いけぶくろ
この冬も～～

え つ ね ん え つ と う か つ ど う
2013→2014 越年越冬活動やります

き かん つき にち つき にち にち かん
期間 12月28日から1月3日までの7日間

つき にち つち
12月28日(土)

ひがしいけぶくろちゆうおうこうえん
東池袋 中央公園で 17時から 衣類・ドリンク配布 鍼灸 マッサージ
18時から 医療相談 生活相談
19時から 配食(五目炊き込み飯)

つき にち にち
12月29日(日)

いけぶくろえきまえこうえん
池袋 駅前公園で 12時半から 昼食配布
ひがしいけぶくろちゆうおうこうえん
東池袋 中央公園で 16時から 衣類・ドリンク配布 鍼灸 マッサージ
17時から 医療相談
18時から 配食(大塚モスクのインドカレーとチキン炊き込み飯)

つき にち つき
12月30日(月)

ひがしいけぶくろちゆうおうこうえん
東池袋 中央公園で 12時半から もちつき 15時くらいまで
ゆうしよく はありません。餅つきの最後に五目炊き込み弁当を配ります。

つき にち ひ つき にち
12月31日(火)～1月3日

いけぶくろえきまえこうえん
池袋 駅前公園で 12時半から 昼食配布
ひがしいけぶくろちゆうおうこうえん
東池袋 中央公園で 16時から 衣類・ドリンク配布 鍼灸 マッサージ
17時から 医療相談
18時から 配食(31日 年越しそば 他の日はぶっかけ飯)

すべ むりよう

全て無料です。



と あ せい の
お問い合わせ 090-1611-1970 清野

炊き出しに並んだ人数は微増

いつもの炊き出しに並ぶ人は確実に減っています。これは都内の支援団体共通のことで、喜ばしいことです。

そこで、越冬でも大幅に人数が減ることを期待していたのですが、期間中ずっと天気がよかつたこともあり、人数は逆に増えました。

夜回りでカウントした、池袋駅周辺で野宿している人の数も

微減にとどまっています。

支援を必要とする人が激減するにはまだまだ努力が必要であると言うことがよくわかりました。

ボランティア

参加してくださったボランティアの人数は1日平均約六十人でした。

この時期は、普段忙しいので参加できない人が、冬休みを利

用して参加してくださるといふことがよくあります。前回の越冬ではそ



12月29日
カレーと
ビリヤニ=鶏炊き込み飯
by 大塚モスク

のような方を無制限に受け入れたので、新人が多すぎて大混乱という事態に。

そこで今回は定員をもうけて、調理に二十名、配食に二十名を確保できたため切って、あとは普段の炊き出しへの参加をお願いするという方法をとりました。参加できなかった皆さんすみません。おかげさまでスムーズに作業を進めることができました。

期間中のボランティア総数はのべ三百六十二人、そのうち新人は五十二人でした。ご参加ありがとうございました。



12月30日
餅つきと獅子舞 by 「風音」



越冬日誌

○7日連続の炊き出し?!

12月の第4週の炊き出しが今年は28日。翌日29日から越冬なので、今年は7日連続の炊き出しという、高齢化するスタッフにはとてもうれしくないスケジュールとなりました。

おまけに、料理長が入院手術したから越冬に出られない、という未曾有の危機が。

そこで、なるべく楽に出来るようにと12月29日は大塚モスクのカレーと鶏炊き込みご飯・12月30日は餅つきだけで夕食なしにしたのですが、みんな手順がわからずにかえって大混乱しましたとき。

○ありがとう「ふとんp」

今までの越冬では毎日生活相談をしてたくさんの方を生活保護などの公的支援につなげてきました。しかし、スタッフの手が足りなくて、障害のある方が劣悪な貧困ビジネスの寮に入られて数日で失踪してしまったと言う失敗例が後を絶たず。もう越冬中の生活相談はやめようという話まで出たのですが、ぎ

りぎりになって「ふとんで年越しプロジェクト（略称ふとんp）」が立ち上がり、おかげでおおくの方をケアすることが出来た。この連携活動を通年で展開出来るといいのですが・

○昼食くらいがいいな。

昼食の配布は明るい昼間の公園で、対象者も平均60人ほど。これだけの人数ならば作るのも簡単ですし、毎回メニューもかえて、語り合いながらのんびり配れます。いつもの炊き出しもこのくらいの人数に減らないかな。副都心・池袋では無理なのかな。ちなみに昼食メニューの一番人気は親子丼でした。

○ネットカフェ難民

年末に派遣でもらった給料を盗まれてしまった男性。行き場がなくて「ふとんp」で確保した宿に泊まってもらい、年明けには無事に仕事に戻ることが出来ました。その後も「恩返ししたいから」と炊き出しのボランティアに来てくれます。彼のようにまじめで有能なのに、アパートの初期費用が用意できずにネットカフェ暮らしの人がたくさんいます。



大晦日の年越しそば

片や空き部屋が増えて困っている大家さんから「部屋を使ってももらえないか」という連絡も最近が増えました。そのマッチングがうまくいかないのは、大家さんの多くが保証人を求めること。滞納などのリスクをすべて本人と保証人に求めるこの風



1月3日 甘酒
by 立教大学大学院
21世紀デザイン学科
石川治江ゼミ
*今年で9回目!!

土はどうにかならないものか。
○残念
2日の夜、池袋駅の階段に座っていた若い女性。スタッフの声をかいたら「家がない・風邪を引いている」と言うことだったけれど、生活相談スタッフとの連絡がうまくつかず、そのままいなくなってしまう。無事でした。無事であればいいのですが・

ふとんで年越しプロジェクト

1人でも多くの方が暖かくふとんで年を越せるよう
 さまざまな団体・グループと連携し協力して、
 初めての試み、
 年末年始限定の「ふとんで年越しプロジェクト」を行いました。
 医療班の高桑さんに報告をおねがいます。

はじめに

今年の年末年始は土日が重なり、12月27日から1月6日9時までの10日間、行政機関の窓口が閉まりました。国や自治体が施策を行わない状況に対応し、有志が集まり「ふとんで年越しプロジェクト」を立ち上げました。

目的は2点。

1人でも多くの方が暖かくふとんで年を越せるようにシェルターを借りて運営すること。
 東京にあるホームレス支援・生活困窮者支援のさまざまな団体・グループと連携し協力して、この長い越冬活動を乗り切ること、です。

連携団体として、のじれん(渋谷)、あうん・隅田川医療相談会(山谷)、もやい(新宿)、民医連、聖イグナチオ生活相談会(四谷)、ホームレス総合相談ネットワーク、そしてTENOHASI・世界の医療団、(順不同)も参加をしました。
 なお医療班の活動は、カトリック池袋医療班にご協力をいただき行いました。

活動内容

医療・福祉相談会

(1) 場所

東池袋中央公園 5回
 渋谷神宮前公園 3回

(2) 相談者

延べ人数…115名
 (男性115名、女性0名)

(3) 相談者の年齢構成

30代 3%
 40代 18%
 50代 26%
 60代 44%
 70代 9%

(4) 疾患別

上気道感染症 45%
 ほかに胃腸炎、高血圧症
 腰痛、歯痛、下痢、皮膚疾患
 糖尿病、頻尿、眼下疾患など

(5) 考察

訓練された医療・福祉チームの問診により、医療上処置が必要な重篤な疾患を持つ人が多数、野宿生活を送られていることを再認識する。

《深部静脈血栓症、十二指腸潰瘍後吐血、心不全、肝硬変、大



動脈解離(乖離)手術後、肺結核など》

上気道感染症の相談者が全体の45%を占める。

《路上の過酷な環境や不衛生な生活、それらの伴う免疫力低下に起因すると考えられる》

60歳以上の相談者が全体の53%、認知症症状がある人もいる。

《路上生活者の高齢化・「認知症」と「終の棲家」問題は、今後重要な課題になる》

精神障がい、身体障がい有する人もいた。

歯痛が相談者数全体の4%を

占める。

《生活衛生環境が整えられていないことに起因すると考える》

炊き出し会場に見られた女性

《女性の貧困問題の潜在性》

シエルター提供と訪問診療

(1) シエルター

池袋周辺のホテルの部屋を提供

(2) 利用者数…約20名

(3) 相談者の傾向

(「もやい」の分析による)

①長期路上層

《知的・精神障がい・依存症・認知症等の問題、行政機関への不信任等》

路上と支援を行き来している層
《知的・精神障がい・依存症等が背景に。公的支援を受けても本人が適応できない・または本人に適した支援が提供されない》
不安定就労&不安定住居層

《就労は可能だが疾病・発達障害・虐待歴等。安定就労に結びつかず。》

3. 活動から得た教訓と今後の展開

9日間の医療・福祉相談を通

して、各ケースともに「生きることの困難さ」を問う場面に多く出会いました。

経営者の都合で理不尽な解雇にあった30代男性、始めての冬の路上生活に心が折れてしま

いそうでした。
依存症やコミュニケーション障がいにより、他者から理解されず孤立を深めていく人、自ら安定した生活を壊してしまう人。

シエルター利用者の多くが複雑な問題を抱えており、心理面において専門的介入が必要であるとの印象を受けました。

また医療相談の支援活動は、福祉相談スタッフ・各支援団体と連携することが必須であることを再認識しました。

「風邪薬を下さい、マスクを下さい」と相談者は訪れますが、そこから話を引き出し、必要な人には傾聴・共感し、悩みを共に考えていける専門的介入が必要になります。

必要ならば他団体・機関に連携する窓口の役割を担っています。

医療相談をきっかけに、問題を導き出し、生活改善に向けての支援に繋ぐ、その為の福祉支援であったり、病院紹介であつ

たり、暖かい温もりであったり。その人がその人らしく「生きる」為に寄り添い、そして背中をそつと押す役割を担う必要性を考えました。

「あそこに行けば誰かがいる。自分たちを偏見無く受け入れてくれる」と感じられる相談場所の意義を考えました。そして今後は必要な場所へ柔軟に向向くことができる体制作りを考えて行くことも計画中です。



今後益々厳しくなる路上生活者・生活困窮者支援において、様々な専門職の介入が必要になります。その為にも各団体、医療・福祉支援者、病院との連携強化が今後の課題になると考えています。
「その人がその人らしく生きる」為に、私たちは支援を続けていきます。

医療班

高桑郁子

池袋のジャムおじさんに インタビュー！！

池袋の隣・要町駅から歩いて5分ほどの住宅街にある、昭和モダンのすてきな一軒家が山田さんのお宅です。

ここは毎週水曜日に、元路上生活当事者が集まってパンを焼く「池袋あさやけベーカリー」となり、月2回の水曜夜は、近所の子どもたちが集まる「要町あさやけ子ども食堂」になります。そのご主人、「池袋のジャムおじさん」と山田和夫さんにインタビューしました。

本当にすてきなお宅ですね。東京オリンピックのころに建てられたんですか・・・ここでパン屋を始めたきっかけを教えてください。

25年ほど前にかみさんが「こ



んがりパンや」というパン屋を始めました。その頃子育て真っ最中で、夏休みとか家においてあげたい。そこで、自宅で天然酵母のパン屋を始めました。

TENOHASIとはいつからの関わりでしたっけ

かみさんが近所に住んでいる坂内さんと出会って、それから売れ残ったパンを毎週水曜日のTENOHASIの夜回りで配ってもらうようになったんです。

いつも坂内さんが自転車で取りに行っていましたね。

ところが、2009年の夏に病気がかみさんをなくしました。そのかみさんからの申し送りというか遺言に「てのはしへのパンの提供を続けてほしい」とあったんです。レシピ付きでも、しばらくはぼーっとして何も出来ませんでした。

半年くらいして、何か忘れ物してるな・・・あ、パンだ！



って思い出したんです。

2010年の1月から一人で焼き始めました自分では焼いたことがなかったんで、天然酵母は使わずイーストで。それを坂内さんたちに取りに来てもらって夜回りに出してもらいました。

でも、11年3月の震災があったって、いったんパン作りをやめました。落ち込んで。

そしたら、7月に坂内さんから電話があつて、「お手伝いしますからまたお願いします」って言うんですよ。「お手伝いしたい人がたくさんいます」って。パンを焼きたいって言うんだから、若い女の子がたくさん来るんだらうと思つて、どうぞ、つて言っちゃったんですね。そして、なんだか、いかつのがたくさん来てびっくり。しかも

何も紹介がないから、障がい手帳があるとか、何も知らなかった。

そりやあびつくりですね。ぎくしやくしたんじゃないですか。

最初は緊張しましたけどね、でもすぐ慣れて、それから楽しかったですね。中村あずささんが「あの人たちに順応した早さはすごい」と言っていました。違和感がなかったんです

パン作りでも、レベルがどんどん上がってきた。今は相当レベル高いですよ。カレーパンと



かあんパンみたいにパンで何かを包むのを、包餡って言って、かなり難しいんですけど、それも出来るようになりました。

11年の秋、東京プロジェクトの集会があって、このパン作りが東京プロジェクトの中でどんなポジションでやっていくのかが見えてきました。それまでは単にパンを提供し、お手伝いを受け入れると言うだけだったんですが、当事者のデイケア的な活動の一環として位置づけられたんです。それから、当事者研究や料理教室など東京プロジェクトの他の活動にも顔を出して、パン作りに来ない人のことも知るようになりました。

「池袋あさやけベーカリー」という新しい名前も出来た。

このパン屋の総称です。夜回りで配る以外でも、浦河べてるの家関係の「当事者研究」の集まりで売ったり、毎月第2日曜の「えんがわ市」（としまNPO推進協議会が開いているフリマ）で売ったり。

国産小麦と種子島産の精製していない砂糖とか、材料にはこだわっていますよ。エプロン・

帽子・手洗いなどの衛生管理も習慣付いています。

パンはどれも1つ100円。利益？出ているんだかいらないんだか・・・

それから子ども食堂に発展したんですか

2012年の秋、かみさんがやっていたパン作り教室の生徒だった栗林さんが、自家製のキムチもって来たんです。

「ホームレス支援だけじゃなく、子どもたちへの支援も大事なんです。あなたも何かやりなさいよ」ってなかんじで。



そうかあ、この場を使って何か出来るかなと考えて、大田区に出来た「子ども食堂」というのを見に行っただけです。そこでヒントを得て、うちでもやることにしました。

いま、NPO法人「豊島子どもWAKUWAKUネットワーク」の三本柱が、プレイパーク・無料塾・子ども食堂です。

オープンはいっでしたっけ

13年の3月20日です。それから月2回ずつやって、1周年になりました。



どんな人が来るんですか

普通の親子、母子家庭の子、夕食を一人で食べている子、もしくは食べていない子とか、あるいは母と子の二人で煮詰まっている家や、生活保護の人とかが来ます。

スタッフが15人くらいで60食つくります。子どもと親、見学者が食べるので、スタッフが食べられないときもあれば、やたら余るときもあります。

どんな人がスタッフをやっているんですか

ほとんどは近隣の方です。本



月は休んで、2月に再開したんですが、再開当日はみんな張り切ってたな。みんな楽しみにしてくれていたんだなとよくわかりました。Aさんは自分の役割がよくわかってやっている。Bさんは子ども食堂の終わりまでいて、洗い物を徹底的にやってくれる。Cさんは台所をぴかぴかにしてくれます。みんながんばりますよ。

当にうちのお隣さんもいます。月1回、大阪から来る人もいます。

料理長も近くの人です。以前、マクロビ料理のカフェをやっていたというので、「要町カフェ」と言うのをここで何回かやっただけです。この人ならと思っ指しました。

先日、子ども二人連れてきたお母さんが、「私、手伝いたいんですけど」・・・当事者も参加したいんですね。一番楽しそうなのはスタッフですよ。

食材はどうしているんですか。

野菜は、埼玉県三芳町の「明

石農園」という、無肥料自然栽培の農家さんからもらっています。この人は板橋区の出身で、2002年の新規就農した若い人なんです。

お米は送ってくれる人がいて、魚沼産や三重産のコシヒカリを使っています。

1階のリビングと和室を使ってみんなで食べて、終わったならみんな2階で遊んでいます。お化け屋敷をしたり、秘密基地を作ったり。子どもたち喜びますよ。

1月はパン作りをお休みしたんですよ。

はい。ちょっと疲れたんで、1

苦労することはありますか。

パン屋はうまくいっています。ただ、午後1時作業開始なのでこの時間に集まってほしいんですが、彼ら時間で・・・

始めないと押し寄せになるから集まらなくても始めるけど、1時に来いよ。

子ども食堂は、大人が多すぎ。子ども食堂という単語に魅力があるのか毎回見学者が押しかけて、大人食堂みたいになります。

見学者には説明しないといけないので、ずっと説明してますよ。

「私もやりたい」という人いるけど、出来たという話はあまり

聞きませぬね。保健所の許可も必要だし。うちはパン菓子製造業に飲食業を加えるだけだったのでそんなに難しくはなかったんですが、一から始めるのは大変でしょう。

ご自宅を開放して毎週パンを焼き、月2回子ども食堂をやるなんて大変だと思うんですが、なぜ続けているんですか

性格です。親譲りの。人を呼んで食べたり騒いだりするのがお袋も私も好き。家に他人が上がってくるのが普通なんです。

かみさんがなくなつて、しばらくは誰からも電話も手紙も来ない日々があつたんでね、寂しかったなあ。私がリタイアしたら二人でパン屋をやるつもりだったから。

2011年の7月にパン屋を始めて、12年の6月に魚屋・生活クラブ生協のワーカーズコレクティブに就職しました。1年間は全然駄目だったけど、やっと包丁が使えるようになって、いまは楽しいですよ。2万円のブリをさばいたりとか。

ずっと前から魚屋さんだったんだと思っていました。現役時代は何をされていたんですか

けん玉とかフリスビーを作つて売る事業をしていました。

日本けん玉協会公認の「競技用けん玉」というのは私が作つたんです。35年前に。あれはこけしを作る技術を応用したんですが、こけし作りは群馬県が南限なんです。群馬の小さな工場で作りました。初年度は700個だったのが、ピークは年20万個作りましたね。工場が足りなくなつて、かみさんの実家の山形のこけし工場を作り替えて作らせた。

そうそう、自慢が一つありますね、7年位前に、フランスの有名ブランド・・・VとLを組み合わせたロゴの・・・から、秋冬コレクションの記念品のけん玉を作ってくれと言われました。向こうがデザインした通りに作つたんですが、難しかったね。要求された精度がコンマ5ミリ以下。とんでもなかったけど、いい記念です。

木で作るのにコンマ五ミリですか！材料は何を使うんですか。

公認けん玉は、玉はサクラ、本体はブナで作っていました。ブナは乾燥すると芯が腐るので建材には向きません。昔からおもちゃにしか使わない。安いし、精度が出るんです。ところがブナの森を守れって言うことになつて手に入らなくなつちやうた。そこでカエデに変えました。

公認けん玉というのは私の学校でも生徒がよく遊んでいるんですが、まさか山田さんが作つたとは。フリスビーというのは？

フリスビー・・・これは商標なので一般的にはフライングディスクって言うんですが・・・普通はポリエチレンのディスクに多色刷りの転写紙を使って熱転写するんです。ただし、これはロットがある。何千枚とか作らないと採算が合わない。

ところが、ドッグトレーナーが名刺代わりに配つたりすることがあるんです。そういうときに、ほしいのは100枚とかでしよ。そこで、油をはじくポリエチレンのディスクに、コロナ放電を使って油性インクをのせる方法を開発しました。町工場の技術です。これで小さいロッ

トでもすぐ出来るようにしました。

すごい。人に歴史ありですねえ。では、最後に、これからどんなことをしていきたいとお考えですか

これからですか・・・たぶん、何かあると思います。どこかでヒントを得て・・・パン屋も変わっていくと思います。パンだけでなくてベーグルやケーキとかもやるかも。ただ、クロワッサンやバゲットは難しいのでやらないかな。

子ども食堂は沢山の人に支えられて今日まで来ました。これからもずっと続けられていけばいいですね。



生まれ？ 昭和17年、静岡生まれ。6人兄弟の4番目。オヤジは兵隊にとられて満州に8年。俺が小学校に上がってから帰ってきた。入学式は兄貴が来たんだよ。

高校を卒業して、ラジオを作ったり、本のセールスしたりして働いたけど、仕事が続かないんだな。何をやっても満足できない

れ。田舎から東京に出て、電気工事やドライバーとかいろいろ試したけど、やっぱりダメなんだ。そうこうしているうちに40すぎたらどこにも雇ってもらえなくなつて、山谷や高田馬場で日雇い仕事。

その頃はバブルだったから、仕事はいくらでもあつてね。結

どうなるだろうって。でも、それで満足しちゃうヤツが多い。それでまあ、50の頃、バブルが弾けた。日雇い仕事がどんどんなくなつた。仕事ももらえないのは週に1〜2日。ドヤ（簡易旅館）にいられなくなつて、戸山公園にテント張つてホームレス生活。10人くらい集つて助け合つて生活してた。

六十すぎたら、あきらめだね

ホームレス暦20年のAさん。

生活保護をうけてもやっぱりまた路上に戻つてしまふ「強者」です。どうしてまた路上に？ 直撃インタビューしてみました。

*プライバシー保護のため一部を変えています。

い。自分は何をやりたいのかな、と思つているうちにどんどん歳を取つちやつた。

30で嫁をもらったけど、生活が苦しくてね。身体も弱かつた。胃潰瘍で3回手術した。クレーン免許とろうとしても目が悪くてパー。勉強きらいだから他の資格も取れなかった。何やつてもうまくいかないから、人生あきらめちやつた。35で嫁と別れて、後は野となれ山とな

構稼げた。日雇い仕事は辛いとおもわれがちだけど、その日の気分で行つても行かなくても自由だから。これがいつまでも続くと思つていた。そこで気がつけばよかつたんだ。

健康な人で日雇いやる奴なんていないよ。みんな何かしら欠陥があつた。考える力が弱いんだ。頭のいい奴は2、3年で考えるよ。日雇いして1日1万とか2万とかもらつても、将来

60はから池袋。炊き出しつていうのがあつた。初めて知つた。ありがたいもんだね。それで、気がついたら

本（読み捨てられた雑誌を集めて露天商に売る）や缶（アルミ缶を集めてリサイクル業者に売る）とかいろいろやつた。とりあえず喰つて飲むだけは稼げたよ。

それがさ、リーマンショックで缶1キロ200円が50円に暴落。雑誌も発売当日でないと売れなくなつた。

福祉（生活保護）もらつてホームレスやめる奴も出てきた。俺は管理されるのは嫌だからもらいたいのと思わなかつた。やっぱり自由がいいよ。お上の世話にはなりたくない。

でも、体がもたなくなつたときには役所に頼んで福祉もらうようになつたんだ。

最初は65の時だったかな。蜂窩織炎（ほうかしきえん）細菌で炎症を起こし手足がふくれあがる病気。路上生活者に多い）で歩けなくなつたんだ。上野のSSから千葉の施設に入った。二人部屋だったよ。大の男が四



畳半に二人でいて日がなテレビ見てるんだよ。食事は料理できる奴に作らせて、散髪できる奴に頭刈らせるんだ。1ヶ月で嫌になったね。病気が治って3ヶ月で出てきた。

病気じゃなければ寒くても食えなくても何とかなるもんだ。そんなことの繰り返し。

そしたら坂内さんに、生活保護でアパートの個室に入れるって言われて、行ったんだ。クーラーも洗濯機もあっていい部屋だったよ。でも壁が薄くて、となりの音が筒抜けだ。それと、友達が来て飲んで騒いでね、いられなくなっちゃった。

それから？ また池袋でホームレスしてたよ。夜は駅の地下で寝て。1時に終電がでると駅を追い出されるから、夜じゅう歩いて公園巡り。そうしてると仲間に出会うんだ。炊き出しいってパンとかもらってきたやつとか、回転寿司の売れ残りをもらってきたやつとか、そういうを分けてくれる。酒おごってくれたりもする。みんな寂しいから仲間がほしいんだ。話し相手いないし。福祉受けた奴が仲間ほ

しくて公園をぶらぶらしていることもある。俺も、たまに千円でも入ったら鬼ごろし(100円の紙パック日本酒)買ってみんなに分けるよ。

で、朝4時になったら駅が開くから段ボール敷いて寝る。でも7時になるとガードマンが回ってきて「移動して下さい。掃除の時間です」。その後は1時間ごとにガードマンがやってきて、寝てると追い出される。

ホームレスも5年とか10年やったら慣れちゃう。嫌な奴は1ヶ月でやめるよ。でも3ヶ月やったらどうにか慣れるもんさ。

風呂？教会とか、支援団体のシャワーが週1回くらいは使える。服は炊き出しでもらうんだ。下着や靴とかもあるよ

飯は、教会の炊き出しが多いな。山谷から千住・池袋や渋谷まであっちこっちにある。やる日が決まっているから、炊き出し巡りするんだ。でも70すぎたら体力落ちたな。

でもね、今の方がよっぽど健康なんだ。小学校の頃は扁桃腺でしょっちゅう休んでたし、若

い頃は胃潰瘍。いまが一番健康かも。

60すぎたら、あきらめだね。もうどうにもこうにも立ち上がれないって感じ。

酒？飲むよ。でも好きで飲んでいるんじゃないんだ。忘れたくないじゃないかな。考えてたらノイローゼになって首つりするようになってしまった。

おれさ、福祉受けるような人間ができた原因を調べようと思うんだ。ホームレスになるような原因。やっぱり貧乏な家の奴が多いよ。親がしっかりしてない。ちゃんと育ててないね。オヤジに虐待を受けて、親を恨んでたり。そういうのが犯罪者になつたりする。

社会に言いたいこと？ある弁護士が言ってたんだ。東京は



これ以上インフラはいらない。福祉や医療・防災に使うべきだ。俺もそう思うよ。お金は使い方でしょ。美濃部さん(元都知事)の頃はよかったな。開発はもういいと思う。自殺者が3万人もいるんだよ。弱い人が生きられる社会になってほしいね。

最近のマッサージ班 & 鍼灸班



来てくれてありがとう

マッサージ班
橋本善博
橋本邦恵
加藤正毅

橋本善博

路上生活をしている方のマッサージを通じて沢山出会いがあった。印象として全く変わらないう近所のおじさんたち、知識、技能もあり見識もある人が多かった。ふとしたきっかけ、解雇、怪我、病気等、社会から外されてしまった。誰にでも起こることかなと思えました。長いみちのりを生きるために歩いて配食を受けにくる。そんな方達の疲れた足腰をマッサージを施し、「軽くなったよ」と笑顔でかえられる。帰り際に「また頼むね。」わたしも、「来てくれてこちらこそありがとう。」と笑顔になります。利用される方の半数は何等か障害を抱え、さらに年齢を重ねているのを多く見かけます。障害は軽度でも作業はつらそう、現在の福祉の隙間にハマって援助が受けにくい悲しい感があります。今後も、てのほしの活動に参加して僅かでもお

役にたてれば良いかと思えます。

橋本邦恵

ボランティアに参加して2年半、私の目はほぼ全盲です。毎回、横須賀の自宅から沢山の友達に手助けをしてもらいながら公園に辿り着きます。これからボランティアに行くのに、ボランティアしていただいて、何だかなあ(苦笑)と、思いながらも今、私の手を引いてくれている人は間接的にTENOHASIに協力してくれているんだ！これぞ手の橋！なあって思っています。路上生活の人達は博学な方が多く、常に頭が下がります。自分みたいな人間に食事どころかマッサージまでしてもらえるなんて、涙が出るほどうれしいよ。俺みたいな人間に、いやがらずに触れてくれるのがすごくうれしいよ。と言われ、いやじゃあないよー！とセクハラそっちのけで抱きついてしまう事もしばしば。公園で皆様にお会い出来るのが私にとって最高の幸せです。マッサージを待っている人がいるかぎり私は公園に行き続けます。

加藤正毅

公園の奥で夕方5時から7時まで炊き出しに来た人にマッサージをしています。はじめ一人でしていました。今は2、3人でやっています。足が痛い、腰が痛い、背中が痛い、肩が凝る、という人を2、30分の施術でどこまで改善できるか、毎回挑戦しています。数年続いています。私にはホームレスの人とあれこれ話しをするのが楽しくて続いています。

刑務所を出てきたばかりだ、と言う人もいて少し驚きました。が、持ち前の好奇心で会話し、あまり聞けない話を聞いたことでもあります。依存症の人にも出会いは、私の経験したことのない話を聞き、少し視野が広くなりました。最近は何となくさびしい感じが、生きるか死ぬかのぎりぎりのように見える人にも出会うこともあります。

ある年の越冬のとき、見るからに疲労困憊した中年夫婦が毎日来ました。2、3年後、その男性がきちんとした身なりで、晴れ晴れとした顔で現れ、「あの時は有難うございました。」と言いました。アパート住まい

をしているとのことでした。見違えるように元気な姿を見て、嬉しくなりました。もちろん私だけの力ではありませんが、路上で絶望している人に希望を与えることに一役買うことができたのかもしれない、と思いました。

また、2、3年前から毎回のよう利用する人がいます。フケだらけの頭、シミだらけの服装のことも多かったのですが、半年くらい前から急に顔つきが変わり、服装もきちんとして別人かと思いました。炊き出しの世話になっていたので何か恩返しをしたかと思ひ、ある慈善団体の炊き出しのボランティアを始めたそうです。その団体で生き方を変えられたのかもしれませんが。この人も変わってよかったですと思いました。

会話しながら施術するマッサージは、体と心、両方ともプラスの方向に変える可能性を持っています。体と心、同時にほぐしたら双方に効果が上がります。しかし簡単ではありません。少しでもうまくできるような向上して行きたいと思ひます。



癒されている自分に気づく

鍼灸班 嶋田 恭子

私がTENOHASIの公園での活動に参加するようになってから一年と少し経ちました。炊き出し班の奥に、私の参加する鍼灸班のテントが張ってあります。私は鍼灸専門学校のわずか3年生で、まだ鍼灸師の資格を持たないので受付係をさせていただいています。

途上国への旅行やJICA青年海外協力隊での滞在などの経験から、人々のシンプルな暮らしに影響を受け、人間が生きていくうえで必要なこと、大切なこととは何なのだろうといったことを漠然と考えるようになっていました。そしてあの3・11。自然の威力の前での文明社会のもろさ、人間の無力さ、そして自分は何をすべきか？私にも考えさせられました。

もともと助産師として自然分娩にたずさわり、自然治癒力を引きだす東洋医学的な考え方に関心を持っていたので、東洋医学的な視点で身体をみて、鍼(はり)とお灸というシンプルな方法で病を癒す、その技を自分も身につけたいと思うようになり、

専門学校に入学しました。鍼灸のボランティアに関わりたくてこちらの活動にめぐり合ったわけです。

海外で物乞いの人たちには接したことがありましたが、日本のホームレスのことは全くわかりませんでした。自分とは関わりのない世界だったので、どんな人たちなのか興味はありませんでした。活動に参加し話をしてみて、公園、ビル、駅などから追い出される、ゆっくり眠れない、夜じゆう歩き回る、とか信じられないことばかり聞きました。みなさん気のいい普通のおじさんたちでしたが、どこか寂しように感じました。日雇い労働、建築現場、工事現場、いつも陰で日本の発展を支えてきた人たちが、精いっぱい働き、生きてきた人たち。生育歴、教育、家族との関係、知的障害、発達障害など様々な背景を抱え、怠けているとか、努力が足りない、なんて言葉で片付けられないと思ひました。自分には雨風をしのぐ家が、ゆっくり眠れる布団が、自分の好きなことをして過ごせる空間が、公園から帰れば待っている。後ろめたい気持ちと

時に、活動に参加しているという弁解をして家路に就く自分があります。

第2・第4土曜の夕方、東池袋にある石崎先生の鍼灸院からテントや簡易ベッド、イスなどの道具をリヤカーに積んで運びます。今では毎回S君が手伝いに来てくれるので大変助かっています。公園に到着し、テントを組み立てはじめると周りの人たちが手を貸してくれます。そのうち治療を受けに来た方も顔を見せるので、カルテを準備しておしゃべりしながら治療開始を待ちます。

治療を受けにいらつしやるのは、腰痛、首肩痛、下肢の痛み、しびれ、冷え、むくみ、耳鳴り、風邪、疲労感、糖尿病など内科的疾患、養生のため、うつなどの精神心理的症狀をかかえる方など様々です。厳しい環境で生活し、ご自分の身体の異変に注意を向ける余裕もないのでしよう、症状がひどくなるまで我慢していたり、放置していることが多いように感じます。常連さんが多いですが、数か月〜数年経ってふらつとやって来る方も多いです。しばらく見かけてい

ないと、「最近来てないけど何かあったかな？元気で来ないのならないけど。」と気になりますね。

治療では、脈診とお腹や皮膚の状態などをみて、身体の特徴やタイプを見極め、それに合ったやり方で、その人の持つ治ろうとする力を引き出すような治療をします。ご希望によりお灸のみ、鍼のみの治療も可能です。鍼は痛いんですよ、お灸で火傷するのでは？ということが多くの方々の持つ心配でしょう。材料もやり方もいろいろあるので、そのような心配はご無用です。

約30分間の治療を終えてテントから出てきた方たちの、ほっこりしたお風呂上りのような表情を見ることは、いつも私にとっても楽しみにしていることです。

私自身も鍼灸に助けられた体験があり好きですし、身体に優しい療法なので、多くの人に知って実感してもらいたいと思っています。

テントの近くを通る方々には、「こんばんは〜」となるべく声を掛けるようにし、初めての方でも立ち寄りやすい雰囲気であ

ることを心がけています。もし不調が出たときに、はり灸でもやってみようか・・・と思ってもやれるようにとの思いからです。

食事や薬、衣類を求めて公園に来られる方々も、人と接すること、顔を合わせ言葉を交わし、触れあうことを欲しているものだと思います。だから、鍼灸は受けられないけれど寄っておしゃべりしていく方も歓迎ですし、症状を聞きながら具合の悪いところを見せてもらい、触れて確認するようにしています。そして、「また次も待っていますよ〜」、というメッセージを送るようにしています。

誰かが自分に関心を持つてくれている、存在価値を認めてくれる、と思えることは大切です。月々2回この活動に参加することは、私自身の楽しみになっていくと。公園に来ていく人たちって、いろいろなことに囚われない自由人が多いですよ、私もそういう類の人間なのでとても居心地が良く、楽しいから続けているのだと思います。どうしようもないことをしていたりもするけ

れど、一生懸命に生き、素直で憎めない、そういう人たちと接していると自分も素直になれる。自分が楽しいから、癒されるからやっているんです。みなさんと、この活動の機会に感謝しています。どうもありがとうございます！それに、同じ意志を持って集まっている鍼灸班のメンバーとの交流や情報交換も毎回楽しみです。

ということでもみなさま、これからもどうぞよろしくお願いします！



はっぴいめーかー大募集

□ ボランティア募集

○生活応援活動 主に平日の日中

生活保護申請の同行・入院者へのお見舞いなど

○炊き出し 毎月第2/第4土曜日

調理班（*文京区のお寺集合） 11:00～18:00

非公開ですのでメールや電話でお問い合わせ下さい

公園班（東池袋中央公園集合） 16:40～19:30ごろ

*4月から時間が変更になりました。ご注意ください。

鍼灸・マッサージ 16:00～18:00

医療相談 生活福祉相談 17:00～18:30

ほっと友の会（お茶会・第4土曜日のみ） 17:00～18:00

○おにぎり配布と夜回り

毎週水曜日（池袋駅前公園集合） 21:30～22:30

TENOHASIのボランティアはアポなし・参加できる時間だけ・1回だけでもOKです。

□ 活動資金カンパをおねがいします！！

郵便振替 00190-8-259686 特定非営利活動法人TENOHASI

振込 ゆうちょ銀行 019(ゼロイチキュウ)支店 当座 259686 トクヒ) テノハシ

□ 物資カンパも大募集中！！

衣類（これからは春夏物を。スーツと女性ものは不要）・靴・毛布・カミソリなど
食材（缶詰・レトルト食品など）

【送り先】〒177-0045 練馬区石神井台6-1-28 清野賢司 TEL090-1611-1970

（夜間指定をお願いします）

お問い合わせは

メール：TENOHASIのホームページの「お問い合わせ」から

電話：090-1611-1970(事務局長 清野賢司 平日は18時以降)

特定非営利活動法人TENOHASI

会報第28号

2014/3/31発行

□ ホームページ <http://tenohasi.org/>

□ メール tenohasi@yahoo.co.jp

発送元：TENOHASI事務局

〒177-0045

練馬区石神井台6-1-28 清野方

NPO法人TENOHASI

TEL 090-1611-1970

(事務局長 清野賢司)

tenohasi happymaker report 20